

4月6日（木）、令和5年度加賀看護学校入学式が同校で行われました。



39名の新生

以下に、式辞、歓迎の言葉、誓いの言葉を全文掲載します。

### 学校長式辞

今年も大聖寺川に桜の絨毯が美しくしきつめられ、新しく入学される皆様に祝福しているようです。この日を迎えられたご家族の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

本年の新生は総勢 39 名、定員を超える方々の入学を許可いたしました。当校を第一志望とされ入学された皆さん、おめでとう。第一志望ではなかったけど、どうしても看護師になりたくて当校を選んでくれた人、ようこそ。そして、社会生活を経験された後に看護師を目指される方、その決意にこちら心引き締まります。入試面接では、看護師の資格を取得後、養護教員や助産師、外国での勤務を目指そうと述べてくれた方、一生懸命一緒に勉強しましょう。

このように当校にはいろいろな背景や年齢の方が入学されてきます。面接を担当した学校長として、とても嬉しく、頼もしく思いました。ひとたび看護の道を選ぶと決意したということは、他人の幸福を願い、それを援助し、自分自身の役割はここにあると宣言した人たちであります。

入学生の多くは高校を卒業した 18 歳、19 歳の若者です。まだ人間として荒削りかも知れません。人が成熟するためには、人とぶつかり、角が取れ、考え方の癖も汚れも取る必要があります。この式辞のためにインターネットでダイバーシティ、多様性という言葉を検索しておりました。ちょうど私の思っていることを見つけたので、紹介したいと思います。それは「芋こじ教育」という言葉です。

最近の若い人は芋ほりを知らないかもしれません。ジャガイモは土の中にいくつも繋がって埋まっています。料理するときには洗わないといけません。ジャガイモ表面には角があり、芽が飛び出していたり、凹凸の中に土が入りこんでいます。これらを洗うには一つ一つ洗うのではなく、小さなものも大きなものも全部一つの桶に入れてかき混ぜて洗うのです。人の教育も同じです。沢山の人の中でもまれ、角がとれ、時に飛び出すものは再び中に入れ、かき混ぜながら綺麗にしていくのです。すなわち人は人の中でしか、洗練されないのです。これは二宮尊徳が見出した集団研鑽の原理、「芋こじ教育」だそうです。

これから踏み出す社会には年齢も違えば、考え方も国籍も違う人と接することでしょう。どうか、当校で多くの人と関わり、話し合い、時にはぶつかって人格を涵養してください。そのために多くの多様性のある新生を採用しました。

高校では試験で何点とか、何番と成績を競ったかも知れません。もはや競争は不要です。助け合い、励ましあって勉学に努めてください。教官も皆十数年前は看護学生でした。皆さんの仲間です。励ましあって、晴れやかに看護師免許を手に巣立ってください。

もうひとつ大事なことを言うのを忘れていました。皆さんを教育する地域の方々のごことです。本日、御臨席いただいております来賓の医療機関の方々、保育園、老人介護施設の協力なくしては、皆様にバランスのよい医療者として成長させることは出来ません。皆さんの決意と感謝の心、地域の協力があってこそその看護教育です。加賀市の地域医療にも是非とも興味を持っていただきたいと思います。



我々も精一杯、教育環境の整備に努めることをお約束します。保護者の皆様には成長を暖かく見守っていただきますようお願いいたします。

令和5年4月6日 加賀看護学校長 北井隆平

### 歓迎の言葉

暖かい日差しが降り注ぎ、春の訪れを感じる季節となりました。新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

皆様はこれから始まる学生生活への期待や不安で胸がいっぱいではないかと思います。私も一年前、皆様と同じように入学式を迎えたことが思い出されます。勉強についていけるだろうかと不安がよぎることもありました。しかし、同じ目標を持つクラスメイトと共に学ぶ中で、分からないところは教え合い、大変な時は励まし合い、年齢や性別を問わず高め合うことができました。

1年生では看護の基礎を多く学びます。専門用語を覚えることや技術練習、病院での実習では実際に患者さんを受け持ち、必要な援助を考え実施します。初めての経験から乗り越えなければならない壁もあるかもしれません。そのような時は今肩を並べているクラスメイトと共に考え、先生方や先輩に相談してください。看護を学ぶ内容は多岐にわたり、自分一人の力で解決しようとするよりも、周りの人と助け合い、質問をしたり、話し合うことでより良い結果が出る場合があります。

また、様々な人と接し関わっていく事は、看護師を目指していく上で大切であると感じています。私たち在校生も、先生方や先輩に支えられながら成長しています。皆さんは決してひとりではないという事を忘れないでください。そして、学校で学ぶ知識や習得した技術は必ず役に立ちます。専門知識が自分のものとなる楽しさを実感し、夢を叶えられるよう、共に頑張っていきましょう。

最後になりましたが、皆様が充実した学校生活を送られますことをお祈りいたしまして、お祝いと歓迎のご挨拶とさせていただきます。

令和5年4月6日 在校生代表 稲田奈緒



### 誓いの言葉

春の息吹が感じられるこの良き日に、私たち39名は加賀看護学校生として入学の日を迎えることとなりました。看護師の第一歩を踏み出すことができましたことをとても嬉しく思います。

本日は私たちのために、このような入学式を催して頂き、心より感謝申し上げます。また、ご臨席頂きました皆様に厚くお礼申し上げます。

長らく私たちの生活に大きな影響を与えている新型コロナウイルス感染症が、来月5類に移行します。しかしコロナの与えた影響が完全に消える訳ではありません。昨年コロナ禍の中、私の祖父は病気にかかり、入院する事になりました。病院ではコロナの影響でお見舞いが禁止されており、家族にすら会えない状況でした。その状況は患者さん方に、孤独感という新たな悪影響を与えました。私の祖父は看護師の方が話し相手になってくださり、元気づけられ、とても喜び感謝していました。いつ、この状況が変化するか分かりませんが、私は、日々精神的にも闘っている患者さんの心の支えになる看護師を目指してこの学校に入学します。

私たち39名は、これからの三年間、看護学生としての自覚と責任を持ち、一人ひとりの目指す看護師像に向けて、知識や技術を身につけていきます。その過程で、どのような困難があろうとも、笑顔を忘れずに仲間同士励まし合い、最後まで全力で努力することを誓います。

先生方、上級生の皆様、そして保護者の皆様、私たちを暖かく見守り、御指導くださいますようお願いいたします。

令和5年4月6日 新入生代表 中村光穂

